

2002年度活動予算計画

Radixの会 事務局長 竹内 周

Radix

Radix

2002年度活動予算案

本年度の収入総額は60,000千円と前年どおり。支出総額は75,988千円となりました。予算の詳細は次頁「2002年度予算計画」をご参照ください。

予算案作成にあたって

●方向性

2月22日総会で全会一致でご承認いただいた4つの方針を元に、それぞれ3つの活動分野に振り分け、組み立てました。

1. 専門部会活動

(農産・畜産・食品・非食品)

→技術向上・相互交流

2. 交流部会活動

→相互交流・情報発信・会員拡大

3. 事務局活動→全般

●とりまとめ手順

活動の実態に沿って下記手順にて3月初旬より着手、ご要望をとりまとめました。

1. 農産部会→らでいっしゅぼーや農産部及び地域ブロックの提案を折衷。

2. 畜産部会→部会の提案を採用。

3. 食品部会→部会活動の実質スタート地点と考えらでいっしゅぼーや商品部の提案を採用。

4. 交流部会→部会活動の実質スタート地点と考え事務局案をもとに企画部+東西支社へ打診。

予算総枠についての考え方

上記手順を踏まえ、事務局にて各提案の反映を検討、かつ必要経費をスリム化させていただきましたが、支出額が当年収入額を上回る予算組みとなっています。

●活動活性化の現状

前期は農産部会の活動が「技術向上」を軸に活性化し、後半には地域ブロックを構築するなど組織的にも

充実し、かつ畜産部会についても自主基準集の発行など活動目的が明確化してきました。さらに事務局活動においても会報発行など活性化が進んでいます。

また、本年度方針により新規に交流部会が発足、消費者との交流活動はもとより、加工・水産・非食品のような実質の入会メリットが薄い会員に対しても「各種イベント等への参加メリットの追及」「らでいっしゅぼーや入会特典の模索」「交流部会活動によるらでいっしゅぼーや会員増大への貢献」などが期待でき、参加意義を訴求できる可能性が増しました。事務局活動においては、課題であるホームページ開設に向け最小限度の予算確保が必要となっています。

これらに加え、役員の増員(10名→22名)は今後の活動活性化に貢献するものですが、運営経費は上昇しています。

●予算管理についての考え方

これらの現状を鑑み、本年度は下記条件つきで前期繰越金の2分の1までを取り崩した予算組みを行なうことを提案しました。

1. 現時点で予算縮小はせず、上期の各活動の成果を厳密に評価し、場合により10月の役員会にて予算の下方修正を行なう。

2. 事務局では「入会促進」「新規事業」など2004年度以降の活動原資を担保する方法の模索を各方面の協力をいただきつつ、進める。

3. 会議費、懇親会費等に内規を設けよ

農産部会地域ブロック委員会報告

Radixの会事務局 鈴木雅和

農産部会は6つの地域ブロックごとに活動を進める、より参加しやすいスタイルを取ります。各ブロックの活動計画を作成するため、ブロック委員の方々と3月初中旬に取りまとめをしました。ブロック委員の方々から電話で意見を聞き取り、その意見を持って鈴木がブロック代表を訪ねて話を詰める方法を取っています(北海道と関東ブロックは委員会を開催しました)。

●北海道は富良野を舞台にした土作り勉強会を引き続き柱にします。

●東北は地域別の勉強会を開き、会員同士が情報交換や共同開発ができる土台を作ります。

●関東では勉強会を兼ねた交流会を開き、お互いを良く知ることで、情報交換や取り組みを作っていきます。

●中部では地域別の勉強会開催を基本とし、堆肥・資材を考えていく活動をします。

●WESTでは、土作り勉強会の小祝塾を春と秋に四国で開催。大阪センター・Radicleの会と協力し、配送車に同乗して消費者のお宅を訪問することも提案されました。

●九州では、小祝氏を九州へお呼びした勉強会を各地で開催。地域・作目に合わせた土作り・栽培体系を考えていきます。

役員会后、らでいっしゅぼーや農産部との話し合いにより①自主基準集の改訂②新規自主基準集作成③指定資材のとりまとめ、これらを早い段階で取り掛かるため、6~8月にブロック集会の開催を検討しています。詳細については決まり次第ご連絡いたします。